

受け継いでいく思い

こくりつ
ーハンセン氏病文庫から国立の資料館へー

2018年 1月8日 (月・祝)

午後 1:30 ~ 4:30 (開場 1:15)

会場：一橋大学職員集会所

(JR 国立駅南口歩8分) 裏面に地図

文庫や図書室、あるいは、資料センターやアーカイブ、博物館……、呼称はさまざまですが、私たちの市民社会には、なにかを記録し、また記憶するための施設がたくさんあります。そこには、それを切望し、創設、維持・運営してきた人びとの思いがあるはずです。

毎年、当会では年始めに「シリーズ“原点”から考える」を開催しています。今回は、国立ハンセン病資料館の学芸員・黒尾和久さんをお招きします。ハンセン病患者や回復者を隔離する根拠となっていた「らい予防法」が1996年に廃止され、また2001年に隔離政策の誤りを日本政府が認めました。それをきっかけに、同資料館は前身の「ハンセン氏病文庫」「高松宮記念ハンセン病資料館」を引き継いで、国立として設立されました。

ハンセン病の患者さんたちが創ったハンセン氏病文庫にまでさかのぼり、国立ハンセン病資料館が受け継ごうとする思いと、その思いを継承していく時に大切なこととお話させていただきます。

皆様のご参加、お待ちしております。

(参考図書：山下道輔『ハンセン病図書館

ー歴史遺産を後世にー』社会評論社、2011)

【問合せ】

ネットワーク・市民アーカイブ

Tel: 042-540-1663

E-mail: simin-siryo@nifty.com

http://www.c-archive.jp

講師：黒尾 和久さん

(国立ハンセン病資料館学芸部長)

プロフィール：1961年東京都生まれ。博物館問題研究会所属。大学で教育学・博物館学・考古学を専攻。多摩地域にて考古学調査に従事。2000年の「旧石器遺跡ねつ造事件」を契機に考古学史研究に着手し、考古学者の植民地支配・侵略戦争、国策との関わりを調査。その過程で、同じ負の構造をもつハンセン病問題に出会い、2009年4月から国立ハンセン病資料館に勤務。



・コメンテーター：杉山 弘

(ネットワーク・市民アーカイブ、
町田市立自由民権資料館)



・司会：町村敬志

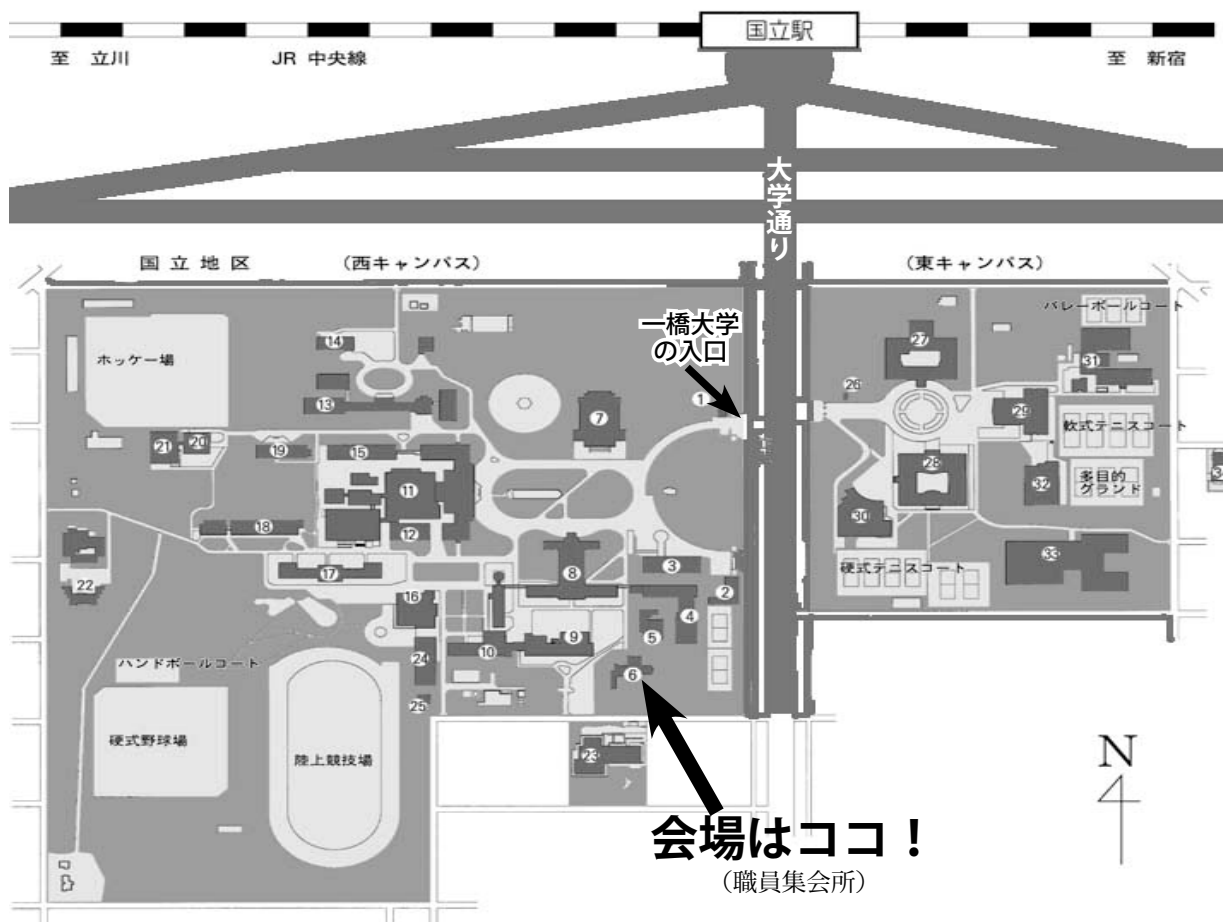
(一橋大学、
ネットワーク・市民アーカイブ代表)



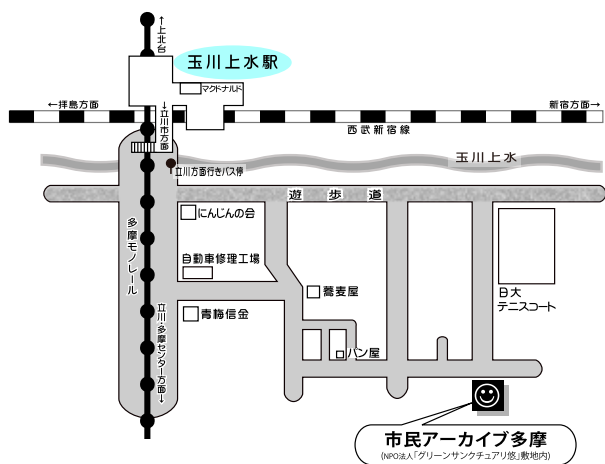
参加費 500円 (学生・会員無料)

【共催】

一橋大学社会学研究科市民社会研究センター
(社会学研究科 t.machimura@r.hit-u.ac.jp)



市民アーカイブ多摩・ご案内



- ・開館日：毎週水曜日（12/27,1/3 休館）、第2・4土曜日
- ・開館時間：13時～16時
- ・入館カンパ：100円～
- ・所在地：東京都立川市幸町5-9-6-7
（多摩モノレール、西武線「玉川上水駅」南口徒歩8分）
- ・電話& fax：042-536-5535（開館中のみ）
- ・見られる資料：2002年以降の市民活動団体や個人が発行しているミニコミ（通信や会報など）1500タイトルほか
- ・ホームページにミニコミのタイトル、発行団体を掲載。
<http://www.c-archive.jp/>
- ・運営：ネットワーク・市民アーカイブ

会員募集中！

会員として、一緒に「市民アーカイブ多摩」を支えてください！

- ・会員の皆さまには『アーカイブ通信』（年3回）や、総会・催しの案内などをお届けします。
- ・会費：正会員 6000円/年 賛助会員 3000円/年 ※30歳以下（U30）会員あり。
- ・入金先：ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226（口座名：市民アーカイブ）